

東部地域でつながり、やってみようプロジェクト 令和6年度事業概要

人がつながり、支え合い、チャレンジし続けるまち
～豊かな自然、快適な住環境と多様な産業が共存するまちづくり～



■ プロジェクトの趣旨

【プロジェクトのねらい】

- ① 東部地域に興味があり、活動したいと思っている人と顔見知りになる。
- ② いろいろな取組のアイデアを議論し、地域や自分たちにあった活動の企画を考える。
- ③ 考えた企画を実際にお試しで活動してみて、地域活動やまちづくりの楽しさを経験する。

【プロジェクトの全体スケジュール】

4月28日
ワーク
ショップ
①

5月12日
ワーク
ショップ
②

5月26日
ワーク
ショップ
③



チームを結成

各チーム（グループ）で準備

~12月
トライアル
各チーム（グループ）でお試し活動



1月26日
実施報告会



■ 第1回ワークショップ

令和6年4月28日（日） 10：00～12：30
東部市民センター 講堂

【概要】

東部地域の課題のうち、2つのテーマ「こどもとわかもの」、「多文化や多世代」を設定しました。参加者は興味・関心のあるテーマを選び、「私がやってみたい・無理なくできる」取組アイデアを出し合いました。

【詳細】

◆ガイダンス

- 事務局より、東部地域を取り巻く現状と課題について地図や人口データ等を用いた説明をしました。
- 東部地域の学校は25年前と比べて児童・生徒の数が減っていることや、外国人人口数は毎年増加しており、地域に占める割合も大きくなっていることなど、テーマに沿ったデータを紹介しました。

◆自己紹介＆東部地域で私がやってみたいアイデアをシェア

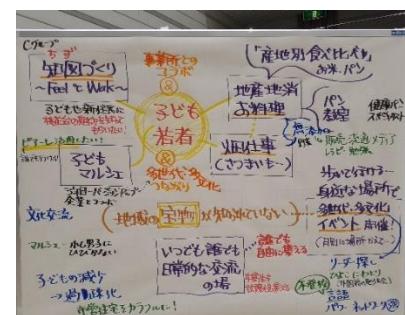
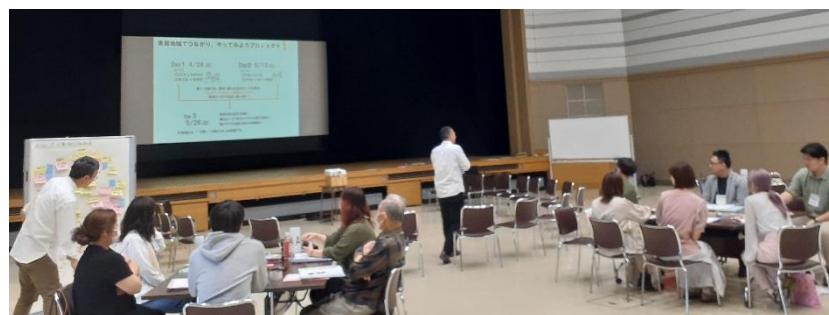
- 参加者全員がくるま座になって自己紹介を行い、名前や所属、活動等を共有しました。
- 参加者一人ひとりが「東部地域で私がやってみたいアイデア」をワークシートに書き込みました。アイデアを考えるにあたり、「私が関心を持っていること」や「東部地域で課題に感じていること」などを書き出しながら、各々のアイデアを整理しました。参加者からは、「多世代でお料理し交流したい」、「まち歩きをしながら東部地域の魅力を伝えたい」など様々なアイデアが出ました。

東部地域で私がやってみたいアイデア
(後ほど、みなさんに書いた内容を発表していただきます。大きめにお書きください!)

◆グループワーク・参加者交流

- 個人ワークシートの後、途中でメンバーを入れ替える「ワールドカフェ形式」でそれぞれのワークシートの内容を発表し合い、みんなのアイデアを元に参加者間で交流しました。
- ワールドカフェは合計3回行い、1・2ラウンドは多世代で交流できるように事務局があらかじめグループを設定し、意見交換をおこないました。
- 1・2ラウンド目の意見交換では、「外国にルーツを持つ人との交流機会が少ないため、歩いて行ける身近な場所で多世代・多文化交流イベントを開催できないか」、「空き家を活用し、かくれんぼやスポーツなど若い人に魅力的な場をつくれないか」など活発なアイデアが飛び交いました。
- 3ラウンド目では、2回の意見交換の中で「この人と話してみたい」、「こんなテーマで話したい」と思った人同士でグループをつくり交流を深めました。右記の3つの切り口がテーマとなり、4～5人に分かれてワイワイ楽しくアイデアを掛け合わせながら、議論が進みました。

グループ1：空き家×多世代・多文化
グループ2：食×こども・わかもの
グループ3：まちあるき×こども・わかもの



■ 第2回ワークショップ

令和6年5月12日（日） 10：00～12：00
東部市民センター 講堂

【概要】

東部地域の課題のうち、2つのテーマ「くらしとしごと」、「プロモーションや観光」を設定しました。2回目と同様、参加者は興味・関心のあるテーマを選び、「私がやってみたい・無理なくできる」取組アイデアを出し合いました。

【詳細】

◆ガイダンス

- ・事務局より、東部地域を取り巻く現状と課題について地図や人口データ等を用いた説明をしました。
- ・東部地域の魅力について、豊かな自然や多様な産業など写真付きで紹介しました。人口減少や高齢化が急進していること、空き家数が増えていることなど、テーマに沿った地域の現状を説明しました。

◆自己紹介＆東部地域で私がやってみたいアイデアをシェア

- ・参加者全員がくるま座になって自己紹介を行い、名前や所属、活動等を共有しました。
- ・ガイダンスの後は、参加者全員がくるま座になって簡単な自己紹介を行いました。今回の参加者は8人と少人数でしたが、ユーチューバーの大学生さんや、地元出身中学校でバスケットボールのコーチをつとめている大学生さん、第1回ワークショップから引き続き参加の建築関係の方など特技をもった若さ溢れる参加者も多く、会場に活気が生まれました。最近楽しかったことも話し、和やかな雰囲気となりました。
- ・第1回と同様、「東部地域で私がやってみたいアイデア」を考えて、ワークシートに書き込みました。
- ・第2回はのテーマは「くらしとしごと」、「プロモーションや観光」ということもあり、参加者からは、「子どもが参加できるサバイバルイベントを開催し、まちなかではできない様々な体験をさせたい」、「市民四季の森で大きなイベントを開催したい」などのアイデアが出ました。



◆グループワーク・参加者交流

- ・ワールドカフェ形式でそれぞれのワークシートの内容を発表し合い、みんなのアイデアを元に参加者間で交流しました。
- ・第1回と同様、ワールドカフェは合計3回行い、1・2ラウンドは多世代で交流できるように事務局があらかじめグループを設定し、意見交換をおこないました。
- ・1・2ラウンド目の意見交換では、「地産地消のイベントを在学中の大学で開催できないか」、「ワイナリーの1DAY体験ができるなら楽しそう」、「子どもたちが自然アクティビティを楽しめるような取組ができるないか」など活発なアイデアが飛び交いました。
- ・3ラウンド目では、2回の意見交換の中で「この人と話してみたい」、「こんなテーマで話したい」と思った人同士でグループをつくり交流を深めました。右記の2つの切り口をテーマに、5～6人に分かれて和気あいあいと議論が進みました。具現化に向けてのアイデアはもちろん、取り組んでいくにあたり出てくる課題も大まかに話し合うことができました。



グループ1：
地産地消×プロモーション

グループ2：
自然・学び×観光

■ 第3回ワークショップ

令和6年5月26日（日） 10：00～12：30
東部市民センター 講堂

【概要】

今年度のトライアル活動に向けたチームづくりをしました。

【詳細】

◆第1回・第2回振り返り

- ・第3回は、第1回と第2回の各参加者が集まる合同開催でした。さらに、今回初参加の方もいらっしゃいました。そのため、第1回と第2回の取組アイデアを一覧にまとめた資料で振り返り、参加者全員で、ワークショップで出てきた、参加者の興味・関心のあることや、取組アイデアを共有しました。

◆個人ワーク＆みんなでシェアしよう！

- ・ワークシートにそれぞれのアイデアを書き込み、発表しました。
- ・「大学で地域の方たちと交流できる収穫体験・調理会」、「東部地域で収穫したブドウ・桃で料理」といった“食”にまつわるアイデアや、「空き家を活用した劇的ビフォーアフター」、「多世代が多様な学びのできる居場所づくり」、「企業との連携」などのアイデアが出てきました。
- ・アイデアを共有するなかで、活動アイデアへの想いが似ていることや、コラボできそうなアイデアがあることなど、参加者間の気づきも生まれました。
- ・主体となって活動していきたい方は、さらに踏み込んだ内容や活動への想いも発表しました。他のメンバーは、自分が考えている活動の方向性と比べながら聞くことで、このあとのチーム分けの参考にしました。



◆グループワーク＆全体発表

- ・主体となって取り組みたい方を中心としながら、参加者のみなさんがワークシートに書き込んだアイデアやシェアした内容をもとに、3つの活動テーマに分かれました。参加者は、自分が興味のあるテーマや方向性の近いグループに集まり、ワークを行いました。
- ・今回のワークショップでは、参加者はどれか1つのチームに入りましたが、今後自分で新たにチームを立ち上げたり、複数のチームに所属したりすることもできます。
- ・今回のワークショップで生まれた活動テーマに沿って、各チームで活動の目的、取組んでいくこと、課題となりそうなこと等について話し合いをしました。グループワークによって、ほかの方の経験やコネクションを知ることで、今後の活動の幅を広げることにつながりました。



◆第3回ワークショップで生まれた活動テーマと主な検討内容

①企業等との連携

企業へのアプローチ方法について、既存のルートか新規のルートを開拓するかを検討！

②ブドウ・桃のPR

桃の生産や加工に関わる専門知識を持った人や事業所とのつながりが必要！

③みんなの居場所づくり・空き家の活用

世代間の交流を目的として、地域や企業に協力してもらいながら進めていかなければ検討！

■ トライアル活動

【東部地域トライアル活動支援事業に認定】

- 令和6年度のトライアル活動認定事業は、昨年度よりも4チーム多い11チームでした。
- ワークショップからは、令和5年度から継続して活動する取組を含め3つのチームが編成されました。
- また、5チームはワークショップには参加せず、令和5年度の取組内容を継続して活動しました。
- 3チームはワークショップには参加せず、トライアル活動を実施しました。

【トライアル活動の概要】

夏休み親子自然塾 I N桃花台

03 親子自然塾



- ▶ 昆虫の生態について標本を使った講義（市民四季の森 四季の森）
- ▶ 季節の植物や昆虫の収集、観測（市民四季の森）
- ▶ ペットボトルを使った植物の呼吸の観察

04 成果・展望



- 成果
普段見れない昆虫を見つけることができた（ナナフシモドキ）
参加者が自然界について学べた
- 展望
四季の森を拠点に今後も継続させたい

●ねらい

若者が東部地域に愛着を持つ環境を整備し、地域資源の保全、魅力向上及び発信の強化、桃花台のブランド力の強化を図りながら、ウェルカムなまちの雰囲気を創出する。

●活動

7月27日、市民四季の森で親子自然塾を開催した。昆虫の生態について標本を使った講義、季節の植物や昆虫の収集・観測、ペットボトルを使った植物の呼吸の観察を行った。

●成果

普段見れない昆虫、ナナフシモドキを見つけることができた。参加者が自然界について学ぶことができた。

Waibeeeマルシェ

Waibeee祭り (11/30、12/1)



Waibeee

Waibeee祭り (11/30、12/1)



Waibeee

●ねらい

小牧市東部地域に住む人が楽しめるところをつくり、多くの人が訪れ、地域を盛り上げて活気づけていく。

●活動

11月30日、12月1日に桃花台線旧車両基地用地でWaibeee祭りを開催した。

●成果

各日キッチンカーが20台以上、グルメ物販等が30店舗以上出店した。地元名産名古屋コーチンとのコラボが実現した。12月1日のキッチンカー1台あたりの平均売上は125,174円となった。

あおぞら市場 in 緑道

●ねらい

農家と桃花台住民の交流の創出を図りながら、地産地消の促進や高齢者の買い物支援などの地域課題の解決にも寄与する。

●活動

7月7日、11月24日に緑道であおぞら市場を開催した。

●成果

7月7日には、地元農家さんと家庭菜園者が6軒集まり、300人以上の来場者があった。11月24日には10軒が集まり、400人以上の来場者があった。

地域住民からは「会所が休憩所として開放してくれたおかげで、のんびり地域の方と交流もできてよかったです」という声があった。

終活講座

別視点で 空き家対策を 支援したい

活動の経緯

- 桃花台を考える会 様が継続的に講座を開催
- 助成金を得ないからこそできる
賃貸のしかたを試したい
市内飲食店の宿泊引換券を提供
新聞折込チラシの流用

士業を 巻き込み講座を開催 17名が参加

活動状況

- 市内の司法書士に協力依頼
- 手帳に書き込む「まとめシート」を作成し提供

●ねらい

高齢化率が高い東部地域における空き家増加の可能性に着目し、空き家にしないための手続きを居住者本人が行う環境を整える。

女性の方が平均寿命は長いことや、夫婦間での年齢は男性の方が上であること等から、妻が最後の居住者である可能性が高い現状がある。

●活動

12月21日に東部市民センターの集会室で、士業を巻き込んだ「転ばぬ先の杖セミナー」を開催した。

●成果

参加者は17名で、そのうち6名が女性だった。

東部イメージアッププロジェクト

～中学生の郷土愛を醸成するための産学連携支援～

桃陵中→ 東部地域へ募集拡大

活動の経緯

- 2023年度
桃陵中学校情報部 様とのコラボ
↓↓↓↓↓↓↓↓
- 2024年度
広くpiresを募り育てたい

情報部様と 東部の中学校へ告知 被取材者も依頼

活動状況

- 桃陵中学校情報部1年生へ配布
光ヶ丘中学校67名
桃陵中学校162名
緑岡中学校50名 計279名
- 見の森活動グループ様、桃花台を考える会様、光ヶ丘小学校区地域協議会様

●ねらい

企業との連携をしながら、東部地域を愛し、魅力を伝える人材の育成を図る。

●活動

8月3日に「CCNet直伝！情報番組制作ワークショップ」を開催した。

●成果

桃陵中学校情報部4名が参加した。参加者は17名で、そのうち6名が女性だった。

CCNetが協力的だった。

こまき地産地ショープロジェクト

1 こまき地産地ショープロジェクトの紹介



3 活動報告



●ねらい

小牧の魅力をもっと市民に知ってもらい地元愛を醸成する。

ショー：「消（地産地消）」「承（伝統文化の伝承）」「照（地元で活躍する市民や企業などにスポット）」「SHOW」

●活動

8月24日に名古屋経済大学の農場で「収穫体験」を実施した。

9月29日に桃陵中学校の調理室で「東部の食 クッキングde味わおう！」を開催し、さつまいも＆ぶどうの蒸しパンケーキづくりをおこなった。そのほか商品開発等も行った。

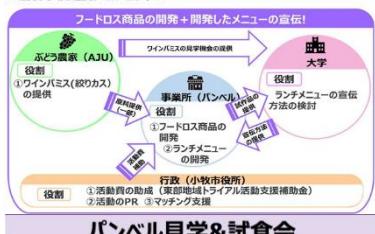
●成果

昨年度につづき桃陵中学校との連携ができ、生徒たちからも好評の声が挙がった。今年度の活動に際し、市民活動団体として登録を行った。

フードロス商品開発プロジェクト

プロジェクトの概要

★産官学福連携プロジェクト★



パンベル見学&試食会



●ねらい

人口減少や少子高齢化が進みまちの活力が低下し、地域特性を生かした商品が少ない東部地域で、フードロス商品を開発しその認知度アップのための発信をする。

●活動

パンベル（事業所）、社会福祉法人 AJU（ぶどう農家）、大学、行政（小牧市）の産官学福プロジェクトとして活動した。10月2日に小牧ワイナリーの見学、11月20日にパンベル見学＆試食会を実施した。

●成果

パンベルのカフェメニューの開発をし、実際に試食をしたり意見交換をすることができた。

絶滅危惧種マメナシを多くの人に知って頂くプロジェクト

●ねらい

絶滅危惧種マメナシを中心に東部地域の資源を使って魅力の情報発信を行う。

尾張白山やマメナシに触れてもらう場の提供をする。

住み続けたいまちと感じてもらい、移住先として選択をしてもらう。

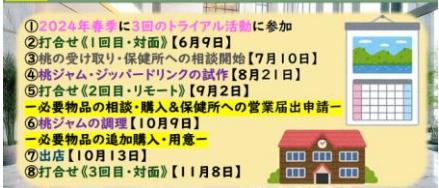
●活動

7月～10月にかけてマメナシガイド勉強会を実施した。

3月28日にはマメナシ観察会・尾張白山フォトランナーを同時開催。

桃・ぶどうを活用した無添加レシピを作ろう！

活動の経緯～Story～



活動状況～Situation～



●ねらい

東部地域の特産物を活用して、作成した無添加商品をPRすることで東部地域の良さを伝える。

●活動

8月21日に桃ジャムとジッパードリンクの試作を行い、10月13日に名古屋経済大学の大学祭で出店をした。

●成果

大学祭では桃ジャムを33個、ジッパードリンクを113杯売り上げることができ、声かけをすることで小牧特産品のアピールをすることができた。

ロゴや出店に必要なポップを自分たちで作成した。

リユースバスケット



●ねらい

地域住民との協力をしながら、個性ある魅力の創造に取り組み、持続可能な発展を目指す。

●活動

11月3日に大草会館で開催されたバンブーインスタレーションや、12月1日に大城児童館で開催されたこどもマルシェに出店した。

11月23日におおくさの家で主催イベントを開催した。

●成果

バンブーインスタレーションでの出店やリユースバスケットとしてのイベントは大盛況で、多くのこどもや市民と交流することができた。

こどもマルシェ



●ねらい

こどもが主役となり社会活動の体験ができる場を提供する。親のつながり、子とともに育つ経験の場として、多世代・多文化交流の場としての機能も果たす。

●活動

今年度で3年目となる活動で、こどもが主役となる体験型マルシェを実施している。12月には通算4回目となるこどもマルシェを大城児童館で開催した。来年度の4月5日には下末参集殿で第5回となるこどもマルシェを実施予定。

●成果

こどもバザールでは出店者数が11ブース、来場者数が299名と、それぞれ目標数を達成できた。また、普段関わりのない人たちとの交流もすることができた。

■ まちづくりセミナーの開催

- ①令和6年9月28日（土）
- ②令和6年12月15（日）
- ③令和7年1月26日（日）

【概要】

まちづくりの人材育成のためのセミナーでは、「地域活動のコツ」「地域資源の活かし方」「住民が活躍する地域活動の事例紹介」をテーマに3回開催し、それぞれ講師やゲストをお招きしお話をいただきました。第1・2回では参加者同士の交流、第3回ではトライアル活動実施報告会を兼ねて行いました。開催日時、講師、プログラム概要は以下のとおりです。

回数	開催日時 開催場所	講師・ゲスト	プログラム概要
第1回	9/28(土) 東部市民センタ ー視聴覚室	【講師】 一般社団法人 BUN-KAI 代表理事 箕浦 希奈 氏 【ゲスト】 バンブーインスレーション実行 委員会 坪井 俊和 氏	○セミナー「地域の理解をパワーに！はじめての地域活動のコツ」 ○座談会
第2回	12/15(日) 社会福祉法人 AJU 自立の家・ 小牧ワイナリー	【ゲスト】 社会福祉法人 AJU 自立の家・小牧ワイナリー 芳賀 俊 氏 管理栄養士 田中 知恵 氏	○まちづくりセミナー「資源を活かして、想いやアイデアをカタチにしよう！」 ○昼食会【まちづくりセミナー終了後】
第3回	R7.1/26(日) 東部市民センタ ー講堂	【講師】 NPO 法人まちの縁側 育くみ隊 代表理事、錦 二丁目 エリアマネジメント(株) 代表理事名畑 恵 氏	○まちづくりセミナー「暮らしやすくやすく豊かな地域を育もう～多様な人が活躍する、全国の事例より～」 ○トライアル活動報告会

【第1回まちづくりセミナー&座談会】

- 講師である箕浦 氏(一般社団法人 BUN-KAI 代表理事)は、地域活動にはじめて取り組む際、既存の団体との丁寧な関係づくりを心掛けたそう。様々なイベントに参加し、関わりを増やしていくことは、活動を進めていくうえで力になっていくこともお話されました。
- 講演後には、ゲストの坪井 氏(バンブーインスタレーション実行委員会)と箕浦氏のお二人によるパネルディスカッションを行いました。活動への参加のハードルを低く設定しライトなファンを増やしていることや、時代に沿った広報やPR方法、SNSの活用に取り組んでいること等、お二人の和やかな掛け合いのもと、有意義な情報をうかがうことができました。
- 最後には、箕浦氏、坪井氏、参加者のみなさん全員でくるま座になって座談会を行いました。日ごろの活動でのお困りごとや考えていることをざっくばらんに共有しました。参加者の方から多くの発言があり、活発なやりとりをすることができました。



【第2回まちづくりセミナー&昼食会】

- ゲストには、芳賀 氏(社会福祉法人 AJU 自立の家・小牧ワイナリー)と田中氏(管理栄養士)の2名をお招きました。「地域資源」は、特産品・歴史・自然だけではなく、地域で活動に取り組むうえで、「人のつながり」が大切であることをお話しされました。自分たちが取り組みたいことや興味のあることを積極的に発信して、新たなつながりをつくり、想いをカタチにしているゲスト2名のお話は、参加者のみなさんの活動のヒントとなる良い機会となりました。
- 会の中盤では、芳賀氏の案内による小牧ワイナリーの見学会を実施しました。小牧ワイナリーは、愛知県で唯一のワイナリーです。障がいの有無に関係なく、すべての人が働きやすい環境となるよう、様々な工夫や設備の整備がされていました。
- 田中氏は、干し芋を畑から育成し、加工販売まで行っています。今回、実際に干し芋をご提供いただき、参加者全員での大試食会を行いました。
- 会の終了後には、小牧ワイナリーのランチをいただく昼食会を実施しました。ゲスト2名も交えての昼食会では、それぞれが取り組む活動や情報の共有、お困りごとの相談などをすることができ、にぎやかな交流の場となりました。



【トライアル活動実施報告会】

○第3回では、はじめにトライアル活動実施報告会を開催し、今年度トライアル活動に取り組んだ 11 チームから、テーマ毎の3パートに分かれて、活動の成果を報告されました。

○各パートの報告後には、参加者からの質問によって活発な意見交換ができました。名畠 氏や、アドバイザーとしてお越しいただいた東部まちづくり審議会会長の増田昇先生からの講評では、イベントへの集客力や商品開発等への評価、活動内容の展開についてのアイデアや、魅力を発信する際のアドバイス等もいただきました。

○聴講者からは、あるチームへの協力依頼を投げかける場面もあり、プラットフォームのあるべき姿が発揮された瞬間でした。



【第3回まちづくりセミナー】

○トライアル活動実施報告会後には、講師である名畠 氏によるセミナーを開催しました。全国の事例を紹介しながら、参加者の今後の活動の参考となる話がされました。

○地域の特徴を記したカルタを住民たちでつくった事例、フィルムカメラを使ったまち歩きの事例など、多くの事例をご紹介されました。

○活動していくなかで、「東部地域を今後どういう方向性で育てていきたいのかを見通しながら活動すること」や「自分の暮らしがよくなることを活動の延長線上におくこと」が大切であるというお話もありました。



↑会場全体の様子

会場後方には「子ども服無償おさがり会！」のコーナーや託児コーナーを設け、子育て世代も気軽に参加できるようにしました。

○最後に、増田先生から以下の総評をいただきました。

- なぜ地歴が大事かというお話をします。「自然に寄り添っていること」、「ひとに寄り添っていること」が地歴のもつ大きな意味です。近代化が進むと、その部分を機械がカバーしたり、巨大になり読み解くことができなくなったりします。
- 高度経済成長期には、「ナンバーワンの地域づくり・都市づくり」を目指していましたが、近年では「オンリーワンの地域づくり・都市づくり」が大きな目的となっています。その「オンリーワン」の拠り所がまさに地歴といえます。
- トライアル活動の報告会にもあった、中学生の郷土愛の育み方や、特産品の見つけ方の模索に大きく共通する点だと思います。
- また、報告会やセミナーでは、「多世代」「多分野」「多様性」という言葉が多く出てきました。長年、「画一性」「標準化」「基準化」という考え方の上で生活しており、個性を失っていました。そのなかで、いかに多様性を保有するかが非常に重要です。
- 桃花台ニュータウン内に固執するのではなく、東部地域に視野を広げると、キャンバス、農村、工業団地、ワイナリー等があり、多様な人間の生活が展開されています。みなさんの活動も非常に多様性をもって展開されていると思いました。
- 必要だと思うのが、バーチャル上のプラットフォームだけではなく、リアリティのある拠点です。名畠さんは「喫茶七番」という地域活動の拠点を開かれています。「公」ではない、「民」がつくる拠点で、だれでも気軽に寄り付ける場所です。
- バーチャルならではのメリットもありますが、地域活動に取り組むなかでは、リアリティのある空間や場所をもつことでの可能性があり、それが東部地域にはあります。トライアル活動においても、こうした展開がされていくとよいと感じました。
- 名畠さんのセミナーでもお話があった、「地域の中で経済が循環すること」、「行動が発展していくこと」についてです。まちにおいて、商いをすることが非常に重要なことです。若者が生業を営める空間や施設ができると、より一層地域回帰・Iターン・Uターンに活気が出ます。
- 「物語力」も重要な視点です。何かの物語を与えることでスパイラルアップしていきますし、各々の活動が結びついでいきます。本日のような場は、お互いの活動がお互いを支え合うような交流拠点です。プラットフォームは情報の共有だけではなく、交流、行動の起点になると、有意義な場になると思います。

